

ま え が き

平成18年10月より現代GP事業に取り組んでいます。本事業は工都新居浜の活性化に資するために、身近な地域社会と連携し「ものづくり人材育成」及び「まちづくり・地域の求心力向上」の2テーマに焦点を合わせて、学生の地域連携プロジェクト型ものづくり活動を、PDCAサイクルを回しながら、継続的に展開するシステムを構築することを狙いとしています。

本事業は平成18年度から平成20年度の3年間の取組です。平成18年度は発進の年度、平成19年度は飛躍の年度、平成20年度はまとめの年度と位置づけています。

初年度の平成18年度は発進の年度として、推進運営委員会等組織を構築して、4プロジェクトの取組をスタートさせました。ものづくり教育研究フォーラムを「地域連携プロジェクト型ものづくり活動の可能性」のテーマで開催し取組の構図を固めました。

平成19年度は飛躍の年度として、4プロジェクトの継続・充実とともに、新たに2プロジェクトの取組に着手しました。ものづくり教育研究フォーラムは「地域連携プロジェクト型ものづくり活動とまちづくり」のテーマで平成19年12月に開催しましたが、76名の参加がありました。徳山高専の商店街の空き店舗などを使った学生の取組、愛媛県総合科学博物館友の会科学クラブの家族も含めた活動等先進的実践の講演があり、大いに参考となり有意義でありました。

成果発表交流会を平成20年3月に開催しましたが、76名の参加がありました。プロジェクトの成果を、学生5名、教員3名、市内小中学校の理科教員2名が地域に対して講演し普及を図りました。また、ポスター・成果物展示に学生5名も参加し本事業の発信を行いました。学生、小中学校教員へ多数の質問が出されて活発な討議が行われました。アンケート結果でも講演・展示等好評でありました。

同じく平成20年3月に開催された評価委員会において、本事業は高く評価されました。「学生に対する教育効果」については、イベントも含めると延べ300名の学生が参加しており、出前活動、成果発表交流会での発表等、学生参加が進展していることが評価されました。「地域の活性化への寄与」については、「地域ものづくりコーディネーター」の活躍により、小中学校と新居浜高専の間で連携が進展して、「実のあるネットワーク作り」に近づきつつあると評価されました。まちづくりの3プロジェクトについては地域へのサポート事業として高く評価されました。

平成20年度はまとめの年度となります。ものづくり教育研究フォーラムは「地域連携プロジェクト型ものづくり活動とこれからの技術者教育」のテーマで開催し、教育改革への展開の可能性を検討します。各プロジェクトを継続して、内容の充実を図るとともに、取組の総決算として、成果発表交流会、評価委員会を開催して、取組終了後の自主的プロジェクト活動継続へとつなげていく見通しです。関係者の皆様の一層のご協力とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

平成20年3月

高度技術教育研究センター長 川崎 宏一